



# 郷小だより

茅ヶ崎市立浜之郷小学校

2024年2月1日

2月号

校長 安倍 武雄

## 学校教育目標 ～支えあう・聴きあう・学びあう～

子どもたちが自分を再発見し、友だちを再発見し、学ぶことの価値と意味を再発見して「人生最高の6年間」を生み出す学校、そして、その営みを通して教師も親もともに育ちあう学びの共同体としての学校でありたい。

### 「関わりことば」

1月25日は新入生保護者説明会でした。たくさんの保護者の皆さんと、新1年生（年長さん）たちが体育館に集合しました。初めて見るものに目をキラキラさせてきょろきょろしている小さい子どもたちが本当に愛らしく、4月の入学式が待ち遠しくなりました。

冒頭のご挨拶では、こんな話をしました。

「4月の入学式まで、たっぴりとお子様と愛情をそそぎ、お子様の気持ちをうけとめ、励ましてあげてください。たとえば、ランドセルをしょって通学路と一緒に歩いてみる、絵本と一緒に読む、一緒に積み木や遊具、砂場遊びをしてみる。親と一緒に多くの経験を積みながら、「できた！」という感覚、私は・ぼくは大丈夫、ちょっとがんばればいいことがある、おうちに帰れば安心できるなどの自信と安心感を持たせることが、安心して学校で過ごすことのできる第一歩となるはずです。親子でたくさんの経験を積んでください。」

保育園、幼稚園といういわば家庭の延長から、学校という小さな社会にジャンプアップしなければならない小さな子どもたちにとって、「入学」というイベントは希望と不安がせめぎあう不可思議な期間となります。子どもから大人へのジャンプアップという意味では中学校進学も全く同じです。当然、進級にも似た感があります。そんなとき、子どもたちにとって本当に必要となるのが、「家庭の安心感」つまり「自分は家族から愛されている」という感覚です。おうちの生活が安心できるものであるからこそ、辛いことがあったら相談したくなるし、うれしいことがあったら報告したくなります。そして、「社会」や「大人」の荒波にも立ち向かおうという気持ちになれるのです。「がんばって、がんばってがんばりぬいて疲れ果てたとしても、おうちに帰れば大丈夫」それが「家庭の安心感」ではないでしょうか。

それは、決して家庭を温室にするという意味ではありません。赤ちゃん時代を思い出してみてください。ハイハイをし始めると手の届く口にはいけないものを口に運んだりします。その時、親は必ず「だめ!」と一つ一つしてはいけないことを教えていったはずで、「(苦手な)～をしたら、〇〇しよう」とルールを守ることを教えたでしょう。「それは、大事大事だから丁寧にね」とそーっと優しく体を動かすことも促しました。丁寧なかかわりをすることで子どもたちは大きくなってきたのです。このことを私たち大人は忘れてはなりません。「ちゃんとして!」「だから言ったでしょ!」なんて子どもからしてみたら、「???」です。「ちゃんとしてどうすること?」「言ったでしょって何を?」という子どもの声が聞こえそうです。

初めて、ぱちぱち拍手ができたり、音楽に合わせてダンスをしたりしたら、「じょうずじょうず」とほめたでしょう。勇気が出ない場面では「大丈夫!一緒にやろう!」と励ましたでしょう。「だめなものはだめ。いいものはいい。」を具体的に示すことが必要です。自分の子育てのころここまで考えられなかった反省をみなさんにお伝えしたいと思います。

今回の郷小だよりの一部は「関わりことば26」 湯汲英史 著 すずき出版」を参考にしています。興味のある方は、ぜひ読んでみてください。同様のシリーズも刊行されています。